

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
M212P107		看護に共通する基本技術 (Communication and Physical Examination for Nursing)					基礎看護学									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
必修	1	1	医学部看護学科	後期	木4,木5	日本語			複数(共同)							
担当教員	氏名 佐藤祐貴子, 清村紀子, 内川洋子, 佐藤佑佳, 廣田美咲, 原田千鶴(非常勤講師), 安藤敬子(福祉健康科学部) E-mail haraguti@oita-u.ac.jp 内線 5031															
授業の概要	看護技術は、対象者と看護者のあいだで行われる「人に関わる技術」であるとともに、専門知識にもとづき安全・安楽・自立を目指した目的的な直接行為である。本科目では、看護に共通する基本的な看護技術としての、コミュニケーション技術および身体診査技術(フィジカルイグザミネーション)を学ぶ。本科目で修得する技術は、臨床判断能力や倫理的判断・行動に必要な基礎的能力の基盤となる。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 看護技術の概念について説明できる。																
目標2 他者とのやり取りを通してコミュニケーション技術を身に付け、実施できる。																
目標3 フィジカルイグザミネーション技術やバイタルサイン測定技術を正確に実施できる。																
目標4 自己の看護技術を振り返り、看護技術を探求できる。																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									4	4						2
授業の内容																
1 看護技術の概念																
2 コミュニケーション技術 (コミュニケーションの基本的知識)																
3 コミュニケーション技術 (コミュニケーションの実際)																
4 フィジカルアセスメントの概要																
5 バイタルサイン (基本的知識)																
6 バイタルサイン (測定技術)																
7 フィジカルイグザミネーション技術 (ランドマーク、呼吸器系、循環器系)																
8 フィジカルイグザミネーション技術 (頭頸部と感覚器、神経系)																
9 フィジカルイグザミネーション技術 (筋・骨格系)																
10 フィジカルイグザミネーション技術 (腹部、外皮系、腎泌尿器系)																
11 フィジカルイグザミネーション技術 (シミュレーター演習:呼吸器系)																
12 バイタルサイン (実技テスト)																
13 看護技術シミュレーション演習 (フィジカルイグザミネーション技術習得)																
14 看護技術シミュレーションテスト (実技テスト)																
15 まとめ																
ラーニング	A:知識の定着・確認		A:リフレクションシート、小テスト			工夫 その他	・対象者/看護者役割の体験、グループワーク、グループ演習、ディスカッション									
	B:意見の表現・交換		B:ディスカッション、デブリーフィング、レポート													
	C:応用志向		C:ロールプレイング、実技テスト													
	D:知識の活用・創造															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		テキスト該当範囲の熟読、テキスト内の動画の閲覧、事前学習課題への取り組み(毎回1h:計15h)													
	事後学修		授業内容の復習、看護技術の反復練習(毎回1h:計15h)													
	想定時間合計		30													
教科書		・茂野 香おる 他:基礎看護技術,第19版,医学書院,2023,ISBN 978-4-260-04992-4 ・任和子 他:基礎看護技術,第18版,医学書院,2021,ISBN 978-4-260-04212-3 ・竹尾恵子 監修:看護技術プラクティス第4版,学研メディカル秀潤社,2019,ISBN 978-4780913231														
参考書		坪井良子他編:考える基礎看護技術 第3版,ヌーヴェルヒロカワ,2005,ISBN 978-4902085099														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末テスト	50%										
	実技テスト	40%										
	学習成果物	10%										
注意事項	<p>* 授業前は、準備学修を必ず行ってくること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清潔に留意し、服装・髪型・爪を整えてユニフォームとナースシューズを着用し参加すること。 ・防寒用のカーディガンは演習・実習で使用できる専用のものを準備しておくこと。（ジャンパー、コート等不可） 											
備考	科目の連絡や課題の提示、資料配布は、毎回Moodleを活用する。（各自で確認すること）											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	<p>看護師：佐藤祐貴子，清村紀子，安藤敬子 他 保健師：安藤敬子</p>											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	看護師：原田千鶴											
実務経験を いかした教 育内容	臨床での豊富な経験と、熟練の技術をもってコミュニケーション技術や身体診査技術の教授につなげる。											